

4～6月の催し・教室スケジュール

▼企画展・イベントなど

- 開催中～4月23日(土)／春のガーデンツアー
※期間中の土日
- 開催中～5月15日(日)／春のフラワーショー
- 4月16日(土)・17日(日)／えびね展
- 4月24日(日)／
牧野富太郎生誕160年記念「マキノの日」無料開園
- 4月24日(日)～6月26日(日)／
牧野富太郎生誕160年特別企画展
「牧野富太郎展～博士の横顔～」
・6月4日(土)／講演「愛すべき天才の情熱」◎
- 5月中旬～下旬／ガンゼキラン大群落の限定公開
※開花状況により日程は調整
- 5月21日(土)・22日(日)／ヤマアジサイ展
- 5月26日(木)～29日(日)／さつきまつり
- 6月17日(金)～19日(日)／サボテンと多肉植物展

▼教室

- 4月10日(日)／ふむふむ子ども教室
 - 4月17日(日)／エビネ栽培教室
 - 5月8日(日)／ハーブの教室
 - 5月15日(日)／見ごろの植物ガイドウォーク
 - 5月22日(日)／ヤマアジサイ栽培教室
 - 5月29日(日)／ふむふむワークショップ
 - 6月5日(日)／川原園長と薬用植物区を歩こう
 - 6月18日(土)／サボテン・多肉植物の育成講座
 - 6月19日(日)／見ごろの植物ガイドウォーク
 - 毎月第2水曜日・第4日曜日 10:00～／草花を描く
 - 毎月第2水曜日・第4日曜日 13:30～／ふれあい植物観察会
- ※4月は第4日曜日は休止

【教室・イベントの申込方法】

当園ホームページのイベント・植物教室ページ、またはFaxからお申込みください。入園窓口でも直接お申込みいただけます。

- 申込先** ホームページwww.makino.or.jp Fax088-882-8635
- 申込開始日** 開催前月の第1水曜日 9:00～(先着受付順)
※◎の申込はホームページのみ受付。
開始日は5月9日(月)9:00～

※新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、今後、企画展・イベント・教室などの日程や内容が変更または中止になる場合があります。最新情報はホームページなどでお知らせしますのでご確認ください。

Information

牧野植物園からのお知らせ

つなげ！高知の少ない生きものたち ～牧野植物園巡回展～

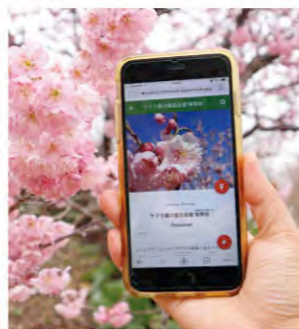
令和4(2022)年春、昨年夏に開催した企画展が巡回展として、越知町立横倉山自然の森博物館ではじまりました。高知県では、どんなところにいるどんな生きものが絶滅危惧種なのでしょう？昔は多かったけど今は見えなくなっちゃった、そうした情報から種の絶滅の危険度を評価してできるのがレッドリスト・レッドデータブック。守るべき生きものがまとめられています。命を未来に残すため保全について学び・考えるきっかけとなる本展、昨年とはひと味違う、動物の研究者が再構成した内容になっています。会期は3月5日(土)～5月15日(日)。コロナ禍で会期半月を残し閉館となった企画展を再構築した巡回展です。見逃した方はぜひご来場ください。(前田綾子)



Information 牧野植物園からのお知らせ

「まきのQRガイド」に サクラスポット登場！

牧野博士ゆかりのサクラなど人気のサクラを16種類追加しました。桜の開花にあわせ3月上旬から4月下旬までの期間限定スポットです。ぜひ、スマホを片手に自分だけのお花見スポットを探してみませんか。(百田みのり)



園内のサクラスポット

観光バス「MY遊バス」のご案内


- JR高知駅から牧野植物園までMY遊バスで約30分。
- MY遊バス乗車券を牧野植物園の窓口提示で、入園料が100円引き。
- 料金／[五台山一日券](高知駅⇄五台山)
大人(中学生以上)600円 子ども(小学生)300円
- MY遊バスに関するお問い合わせ
運行について／とさでん交通(株)TEL 088-833-7171
乗車券について／(公財)高知県観光コンベンション協会TEL 088-823-1434

高知県立牧野植物園ご利用案内

[開園時間]9:00～17:00 [休園日]年末年始(12/27～1/1)
[メンテナンス休園日]6/27、9/26、11/28、R5/1/30
[入園料]一般730円(高校生以下無料)
団体630円(20名以上)、年間入園券2,930円

※身体障がい者手帳、精神障がい者保健福祉手帳、療育手帳、戦傷病者手帳、被爆者健康手帳所持者と介護者1名および高知市・高知県長寿手帳所持者は無料

【交通案内】

改修工事による駐車場大幅減のため植物園駐車場の混雑が予想されます。土日祝日などに運行する【高知新港臨時駐車場+シャトルバス(30分毎運行)】の利用にご協力をお願いいたします。詳細情報▶はりまや橋から車で約20分。
高知自動車道「高知IC」から一般道で約20分。
高知自動車道「高知JCT」経由、東部自動車道「高知南IC」から約15分。
高知龍馬空港から東部自動車道経由で約25分。

※道路案内板の「五台山」または「牧野植物園」「竹林寺」を目標指してお越しください。

高知県立牧野植物園 友の会 会員募集

[特典]※会員ご本人様の特典です。
①窓口で会員カードを提示していただくと、入園料無料。
②「牧野植物園だより」(年4回発行)や、催し物案内を定期郵送します。
③牧野植物園が主催するイベントや教室に会員価格で参加できます。
④レストラン、ショップ利用時にカード提示で、5%の割引が受けられます。(カフェでは適用されません。書籍・植物・酒類は割引対象外となります。)
[会費]普通会員/年額 4,000円 賛助会員/年額10,000円
[入会のお申し込み・お問い合わせ] 088-882-2601 友の会担当まで



牧野植物園ロゴマーク:バイカオウレンの葉

バイカオウレンは、高知では春一番を告げる花として、牧野富太郎博士が特に好んだといわれています。早春に小さな白い花を咲かせるこの植物は、晩年東京で暮らした牧野博士にとって故郷を思わせる懐かしい花でした。

高知県立牧野植物園だより No.89 令和4(2022)年3月31日発行

[編集・発行]公益財団法人 高知県牧野記念財団
〒781-8125 高知市五台山4200-6 高知県立牧野植物園
Tel 088-882-2601 Fax 088-882-8635
[印刷]有限会社 西村騰写堂

www.makino.or.jp  

高知県立 牧野植物園だより



牧野富太郎と その家族と向坂道治

昭和23(1948)年4月24日撮影

写真:前列右からタツエ(孫妻)、美智江(孫)、富太郎、一淳(ひ孫)、(後ろ)まゆみ(孫)、巳代(三女)、春吉(長男)、後列右から百吉(二男)、タケ(二男妻)、玉代(四女)、鶴代(二女)、正己(三女夫)、香代(長女)、向坂道治。(敬称略) ※()は博士から見た続き柄。

表紙の写真の説明につきましては、練馬区立牧野記念庭園 田中純子氏より寄稿をいただきました。

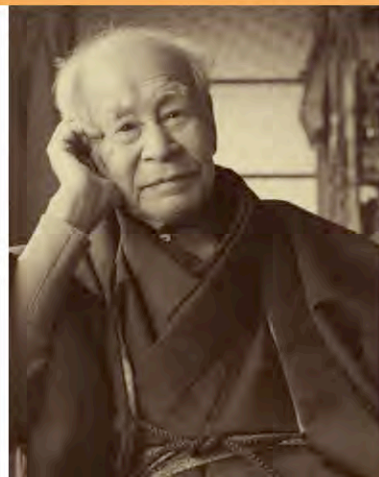
この日、牧野富太郎博士は86歳の誕生日を迎えました。息子さんと娘さんに囲まれ、両脇にお孫さんがいて、膝にひ孫さんを抱いた博士の表情は穏やかで、写真全体から和やかな雰囲気が感じられます。博士はユズリハという植物について「親は子に譲り子は孫に譲りかく譲り譲りして」代々家が繁栄することを表象すると述べています。まさにその如く牧野家の栄えにあって博士の喜びは一入であったことでしょう。また、戦争中行き来が途絶えていた友人向坂道治氏が徐々に牧野家を訪れ写真と一緒に納まりました。『牧野日本植物図鑑』(北隆館1940年)の編纂に大いに尽力した向坂氏とは家族ぐるみの付き合いであったようです。さらにこの年10月に博士はご進講という栄誉にあずかることになります。



牧野富太郎
生誕160年

牧野富太郎博士 生誕160年への歩み

今年、牧野富太郎博士は生誕160年を迎えます。博士の業績を顕彰するため活動を続けてきた牧野文庫の調査研究と、牧野博士ゆかりの植物展示の取り組みをご紹介します。



研究資料の宝庫「牧野文庫」のこれまでと今

牧野富太郎記念館の本館1階にある「牧野文庫」。その歴史は、昭和35(1960)年に牧野博士の蔵書が牧野家より高知県に寄贈されたことにはじまります。その後、自筆の植物図や江戸時代の博物画家の絵などが加わり、「牧野文庫」は質量ともに植物学資料の宝庫となりました。研究ノート、原稿、書簡、日記など博士の遺品類に、博士や家族の写真などは業績を顕彰する上で欠かすことができない重要な資料です。



調査の様子

「牧野文庫」の蔵書目録は昭和56～61(1981～86)年にかけてすでに完成しており、植物図、遺品、写真資料の目録についてはまもなく完成の予定です。また、資料のデジタル化、データベース化を

進めつつ、博士の書簡や日記、植物図を調査しています。調査では、旅先の博士とご家族のようすや牧野家の暮らしぶりなどが垣間見える新たな知見が得られ、こうした発見のいくつかを、4月に開催する特別企画展「牧野富太郎展～博士の横顔～」で初公開します。また、博士の描いた植物図は常設展示「牧野蔵」で年4回展示替えをしながらいつでもご覧いただけるようにしており、10月に開催する「牧野博士と図鑑展」でも未公開のものもあわせて紹介します。

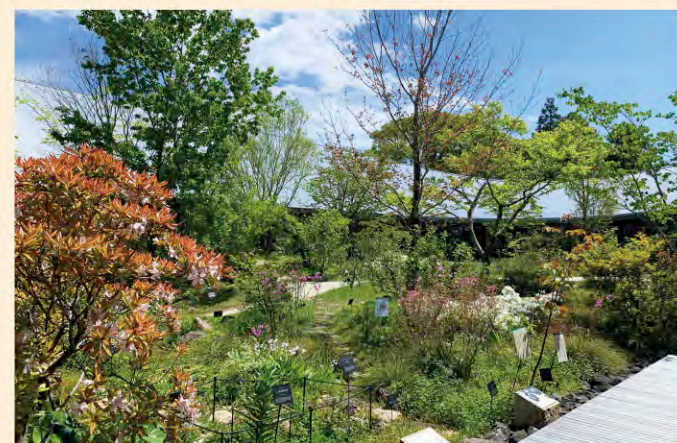
「牧野文庫」は皆さんの貴重な財産です。資料を適切に保管するとともに、調査研究を続け、また皆さんにもっと知っていただくために、今後も資料の展示や新たに得られた情報を発信していきます。(村上有美)



牧野文庫(学術研究調査の場合のみ利用可)

牧野博士ゆかりの 植物の充実に向けて

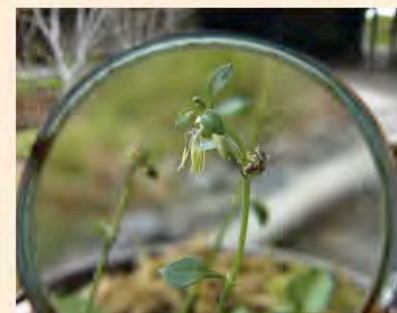
当園には、ほかの植物園にはない特徴的なコレクションがあります。それは、「牧野博士ゆかりの植物」です。ゆかりの植物とは、博士が学名・和名を命名した植物だけでなく、植物図に描いたもの、随筆集に書いたものなど、博士と何かしらのエピソードがある植物の総称で、私たちはこれらを展示することで博士の業績の一端を顕彰しています。



展示館 中庭を彩る牧野ゆかりの植物

■ゆかりの植物の充実への歩み

平成11(1999)年に完成した展示館 中庭には、常設展示と相互補完するよう、ゆかりの植物が集められました。博士生誕150年を見据え、平成22(2010)年ごろからはゆかりの植物のさらなる充実を図ることとし、博士を語るうえで不可欠な植物を選び、特に命名植物においては発見場所由来(Type Locality)にこだわった積極的な蒐集を開始しました。平成23(2011)年には、日本人(牧野博士と大久保三郎氏)がはじめて日本において日本の植物の学名を発表した記念すべき植物、ヤマトグサの開花に成功し、この花を見ようと東京や北海道など遠方からも多くの植物ファンが来園しました。これを皮切りに、ゆかりの植物にして絶滅危惧種のヤハズマンネグサやヒメキリンソウの鉢展示を行い、生誕150年を迎えた平成24(2012)年には、希少種を含む15種のゆかりの植物を展示しました。繊細で園地栽培が難しい種を、開花期間中のみ鉢展示する試みは来園者に好評で、現在も継続しています。同時に、博士の植物図のレプリカをゆかりの植物に添え、実物と植物図を見比べることができる、当園ならではの展示方法もこの時に考案しました。



展示館 中庭で展示したヤマトグサ

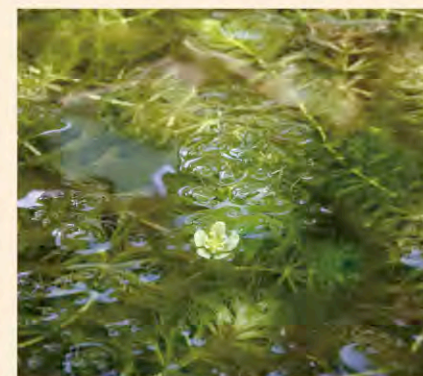
また、博士がこよなく愛したバイカオウレンも同年から園地で見ていただけるようになりました。本種は湿度を要求するため、大部分が尾根で乾燥している園地に定着させるのは困難を極



回廊のバイカオウレン群落

めましたが、数々の工夫あってようやく回廊で群落を維持できるようになりました。園路から目線の高さで見られるので、観察・撮影しやすいと好評をいただいています。一方で、練馬区立牧野記念庭園の協力を得て、博士が行く末を案じていた自宅の庭の植物を、望郷の念がありながら帰郷できなかった博士の代わりに接木苗として里帰りさせ、2019(令和元)年にはこんこん山広場に植栽し、博士の願いを実現することができました。

平成27(2015)年以降は野ギク類をはじめ、富士箱根伊豆国立公園内の固有種アシタカツツジやアマギツツジなど、Type Locality由来の命名植物収集に注力し、ゆかりの植物コレクションの一部は学術的にも価値のある生きた標本となりました。平成28(2016)年には、平成26(2014)年に高知県新産となった博士命名の寄生植物キイレツチトリモチを、植物園としてはじめて園地植栽で開花させることに成功しました。以降、出現しない年があったものの一昨年・昨年と2年連続開花し、メディアに取り上げられ話題となりました。近年では博士の名が世界に知られるきっかけとなった、栽培が非常に難しいムジナモの常設展示および滅多に見られない「幻の花」の連続開花の実現や、「五台山のオンツツジを名物にしてほしい」という博士の希望を叶えるべく、こんこん山広場に五台山産のオンツツジを植栽するなど、さまざまなアプローチでゆかりの植物展示の充実を図っています。



「幻の花」ムジナモの開花

■そして、生誕160年へ

博士生誕160年となる今年、「外来の観光者などを流石は土佐丈のことはあると絶賞するようになりたいもんです」という博士の当園への期待と共に、生きた植物を通じて博士の業績を知っていただける機会として、これまで蒐集したゆかりの植物を、可能な限り途切れることなく展示する準備を進めています。この10年の集大成ともいえる試みに、どうぞご期待ください。

(藤井聖子)

牧野富太郎博士をモデルにした 連続テレビ小説(NHK)『らんまん』制作決定

2月2日(水)、NHKホームページにて、牧野博士をモデルにした連続テレビ小説(NHK)『らんまん』の制作が決定!というビッグニュースが発表されました。「放送予定2023年春」の文字とともに、主演の神木隆之介さんの素敵な笑顔のお写真が映し出され、職員も歓喜に沸き、園内が喜びに包まれました。

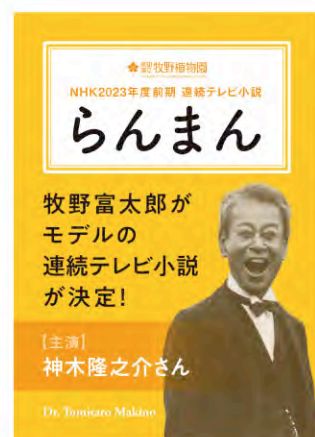
さっそく後日、制作統括の松川博敬様をはじめとする関係者の皆さまが来園され、博士の息づかいや面影が感じられる「牧野文庫(博士の蔵書や遺品など約6万点収蔵)」をご覧になり、当園専門員と博士の真髄に迫るさまざまなお話をさせていただくことができました。

どんな困難にも負けない不屈の精神で、日本の植物相の解明に挑み続けた博士の94年の生涯を、多くの皆さまに

存分に知っていただける場所として、当園では、今後、常設展示や博士の描いた植物図と標本など貴重な資料を展示する「牧野蔵」の展示にも力を入れ、皆さまをお迎えたいと思います。

さらに、今年は生誕160年記念として、博士に関する特別企画展をテーマを変え前期・後期と開催します。『らんまん』放送の前にもご来園いただき、博士を知る予習にご鑑賞ください。

(小松加枝)



園内掲示パンフレット

Information 牧野富太郎生誕160年記念

2022年は “牧野尽くし”の催し続々

特別企画展(前半)も開催

牧野富太郎博士が生誕160年を迎える令和4(2022)年、当園ではさまざまな催しを企画しています。5月15日(日)までは、フラワーショーを開催中。「牧野博士とめぐるこんこん山」と題し「ルピナス」や「チューリップ」などが咲き誇るこんこん山広場に博士の等身大パネルを設置し、まるで博士と一緒に会場を散策しているような気分をお楽しみいただけるよう工夫しました。このほか、博士のモチーフを植栽で表現したエリアも登場し博士色のフラワーショーで、生誕記念を盛り上げます。

そして、迎える生誕日4月24日(日)「マキノの日」(無料開園)には、特別企画展「牧野富太郎展～博士の横顔～」がスタートします。「植物の命名」「緻密な植物図」といった博士の“正面”ではない博士の“横顔”に触れていただける企画展です。牧野文庫より初公開の手紙や写真などをもとに、新たな知見を交えつつ、

こんこん山広場に
登場した牧野博士の
等身大パネル



家族や支えてくれた人たち、南方熊楠との交流など、博士の肉体的な人物像を紐解きます。常設展と企画展の両方から、博士をより立体的に身近に感じてください。初日は、オープニングセレモニーを開催し、先着160名さまにオリジナルブレンドティーなどをふるまいます。また、「マキノの日」では博士ゆかりの植物の定点解説や映像作品の上映などを行います。

博士の業績を改めて紹介する催しも準備して、皆さまのお越しをお待ちしています。

4月24日から作品募集開始!

植物図の名手だった牧野博士を顕彰する「第3回植物図コンクール」の作品募集を開始します。小学5、6年生を対象としたコンクールで、記念すべき今回は、牧野博士ゆかりの植物をテーマに加えました。入選作品は来年春の作品展で展示予定です。

(和田智子)

Info ミャンマー維管束植物データベース公開

ミャンマー植物多様性研究が平成12(2000)年にスタートしてから20年が経過し、これまで当園がミャンマーで収集した腊葉(押し葉)標本は30,000点を超えました。これら採集した標本にもとづき、ナマタン国立公園の目録や植物ガイドブックを出版し、当園のホームページで公開しています。今年度は、より多くの研究者や一般の方が、当園が収集した標本情報にアクセスできるよう、ホームページ上で公開することを目的として、ミャンマー維管束植物データベースを構築しました。公開する情報は、同定結果や採集地だけでなく、標本画像も含まれるため、どのような植物が生育しているか一目瞭然です。また同定結果を、標本画像と比較して検証することができます。ミャンマーで撮影した森林や町並みなどもフォトギャラリーに掲載しており、ミャンマーの自然を知ることができるデータベースとなっています。



公開予定のデータベース画面

<https://www.makinodatabase.jp> (藤川和美)

News 当財団と共同研究実施中の小林製薬が高知県と包括連携協定を締結

平成28(2016)年から、公益財団法人高知県牧野記念財団(以下、牧野記念財団)と、小林製薬株式会社(本社:大阪市 以下、小林製薬)は薬用植物に関する共同研究を行ってきました。この関連事業として昨年9月22日(水)に、栽培を担う大豊町の東豊永集落活動センターとの三者間で薬用植物栽培委託事業の調印式を執り行い、薬用植物の試験栽培を開始しています。さらに小林製薬は、今年1月28日(金)に、高知県と「高知県の地方創生の推進に向けた連携と協力に関する協定」を締結しました。1)中山間地振興、2)地産外商、観光振興などの産業振興、3)県民の健康づくりや地域の安全・安心、4)高知県の地方創生の推進の4項目に関して取り組むこととなり、牧野記念財団も連携協定締結式に参列しました。今後も小林製薬とともに高知県の産業振興、地方創生に貢献してまいります。

(川原信夫)



左から、公益財団法人高知県牧野記念財団 専務理事 川村氏、高知県中山間振興・交通部部長 尾下氏、産業振興推進部長 沖本氏、牧野記念財団 理事長 川原氏、高知県 濱田知事、小林製薬株式会社 専務取締役 山根氏、常務執行役員 大脇氏、中央研究所 所長 高杉氏、中央研究所 部長 矢野氏

News 協定締結報告

植物資源探索研究に関する 新たな連携協定を締結

～熊本大学で締結式開催～

当園は、植物の新たな有効利用法を見出す植物資源探索研究を積極的かつ効率的に行っていくため、熊本大学大学院生命科学研究部附属グローバル天然物科学研究センター(以下、研究センター)との連携協定を令和3(2021)年12月6日



温室でのギンゴウボクの剪定
園地での剪定によって回収した植物は、研究に使用される

(月)に締結しました。研究センターは、「世界中の天然物資源を基盤として画期的な新薬や機能性食品、化粧品素材を開発し、国民の命と健康を守る」という目標を掲げ、

グローバルな研究連携体制による天然物創薬プロジェクトを進めています。

今回の連携協定では、当園が提供する植物を研究センターの持つさまざまな機能性評価技術を用いて、人々が健康に生きるために役立つ新たな機能性成分を探していきます。これまで当園では、海外の植物調査で採取された植物試料を中心に資源植物の探索研究を行ってきましたが、今回は新たな試みとして園内に植栽されている植物や外来種防除活動の際に回収した植物を対象に研究を進めていく予定です。この研究によって、来園者の皆さまに憩いと楽しみを提供してきた園内の植物や、防除の対象となっている植物に、新たな価値を見出し利用することでSDGsの取り組みにもつなげていければと考えています。

(白河潤一)

熊本大学で行われた締結式
三隅将吾センター長(左)と川原園長



Report 遠隔操作ロボットを使用した
博物館鑑賞体験

遠隔操作ロボットを自分で動かして、遠く離れた場所の博物館を自由に動いて見学する。そんな近未来的な博物館鑑賞体験会が、令和3年12月9日(木)に開催されました。



ニューミーの画面に向かって解説する職員

「植物学者 牧野富太郎」をテーマに、東京の国立科学博物館と練馬区立牧野記念庭園、そして高知県立牧野植物園の3ヶ所をネットワークで繋ぎ、遠隔操作ロボット「new me(ニューミー)」をそれぞれの場所にスタンバイ。当園には五台山小学校の6年生11人が来園して、東京の2つの施設に設置されたロボットを自分たちで動かして研究者や学芸員の解説を聞いたり、質問したりして遠隔操作での博物館鑑賞を楽しみました。

国立科学博物館から小学3年生が牧野植物園のロボットを遠隔操作した際には、五台山小学校の児童たちがロボットを誘導して牧野博士の解説をする場面も。未来を担う子供たちが、最新技術体験に目を輝かせる貴重な機会となりました。(片山百合子)

※本件は「令和3年度文化芸術振興費補助金地域と共働した博物館創造活動支援事業」の補助金を受けて、国立科学博物館が実施した博物館鑑賞モデル事業です。

News 東京大学で受け継がれた『牧野日本植物図鑑』の寄贈
牧野文庫の貴重なコレクションの一つに

福岡市科学館館長の矢原徹一氏より、東京大学で受け継がれてきた『牧野日本植物図鑑』[昭和15(1940)年刊。以下、牧野図鑑]を寄贈いただきました。本書は矢原氏が東京大学助手時代に譲り受けたものです。この『牧野図鑑』を開いた扉には、「謹呈中井猛之進君へ、著者より」と筆で記されており、牧野博士が贈ったものであることがわかります。中井氏は、東京帝国大学(現東京大学)教授・四代目小石川植物園園長を務めた植物分類学者で、「先生の如きは我が国の至宝というべきである」と博士を敬い、教授の弟子たちは『牧野図鑑』の編纂に携わりました。

ところで、この『牧野図鑑』の奥付にある頒布番号はなんと!第2号。牧野博士から中井教授への感謝の気持ちが込められていたと思われます。ご寄贈いただいた貴重な『牧野図鑑』は、令和4(2022)年10月8日(土)から開催する特別企画展「牧野博士と図鑑展」で公開予定です。乞うご期待ください。(藤川和美)

牧野図鑑の寄贈
矢原氏(右)と川原園長



見ごろの
花だより

Vol.40
Flowers in season

ベニバナ ヤマシャクヤク

[ポタン科]

Paeonia obovata Maxim.

林の下でひっそりと淡紅色の花を咲かせるように、慎ましやかな美を感じるベニバナヤマシャクヤクは、5月上旬の短い期間にこんこん山広場の東側の木製階段を下った観察路でご覧いただけます。「立てば芍薬、座れば牡丹、歩く姿は百合の花」のことわざで知られるシャクヤクやポタンは古くから園芸植物としても栽培されていますが、いずれも本種の仲間です。

本種は北海道から九州、朝鮮半島、中国などに分布し、落葉樹林の林床や林縁の標高が高く冷涼な場所で生育する多年草です。近年は生息地の減少や園芸目的の採取などにより全国的に個体数が減少し、高知県においても希少な植物で絶滅が危惧されています。当園では令和元(2019)年に、県内で増殖された株約120株を譲り受けました。しかし、当園のある五台山は標高が約140mしかなく、夏がとて暑いため本種の栽培には工夫が必要でした。そこで園地の中でも、ベニバナヤマシャクヤクと同様に冷涼な環境を好む回廊のバイカオウレン近くのエリアを選び植栽しました。丹精を込めて栽培し、昨年春にはじめて開花しました。今年も株が充実しており、繊細かつ可憐な姿をお見せできる予定です。山深い山地に咲き、ふだんはなかなかお目にかかれないう高嶺の花を見るまたとない機会を、ぜひお見逃しなく。

(上杉翔)



植物の
「なぜ?」

Vol.40
Plants' Q and A

Q | 高山では、
花の色が濃くなるって本当?

A | 濃い色の花が多くなります

道端や野山にはいろいろな色の花が咲いています。花の色で何色が一番多いかというと、自然界では白色系が33%、黄色系28%、赤色系20%、紫と青色系で17%、そのほかが2%だそうです。花のなかにはいくつかの色のもと(色素)が含まれており、赤や青い花にはアントシアニン類、黄色や橙色の花にはカロテノイド類、白い花にはフラボノイド類が含まれ、花弁の細胞に色素が蓄積することで色づきます。ただしフラボノイド類は無色透明です。白い花がなぜ白く見えるかは、花弁の中に小さな空気の泡をためて光を反射させているからで、白い花を揉んでも白い汁はでてきません。

どうしてさまざまな色の花が咲くのでしょうか。動かない植物は花を目立たせ、昆虫や鳥などの動物を引き寄せ、花粉を運んでもらい、受粉して種子をつくるため。種子=子孫を残して仲間をふやすために、生殖器官である花が、多様な花色、香りやかたちをもつように進化してきました。

ところで、高山に咲く花は、花色が濃いような、鮮やかな気が

します。もしかすると、高山には濃い花色に引き寄せられる昆虫や鳥などが多く生息するのでしょうか? いいえ、高山では低地に比べて紫外線が強くなるからなのです。紫外線は動物だけではなく植物にもダメージを与えます。そこで植物は紫外線が当たれば当たるほど、その害を消去するために色素をたくさんつくって生殖器官である花を守っているのです。色素が紫外線を吸収し、紫外線が内部へ侵入することを防ぐ、紫外線から身を守る防御メカニズムの一つといえます。その結果、紫外線が強い高山では、花色が濃く、鮮やかな色の花が多くなるというわけです。(藤川和美)



高山でひと際目立つケシの仲間
Meconopsis punicea(上)と*M. bhutanica*(下)

園地のできごと

Vol.40
The gardening
section's news

生まれ変わった ヒツバタゴ



独特の質感に仕上がったベンチ

牧野植物園だよりNo.86で南園のシンボルツリーだったヒツバタゴを伐採したことをお知らせしました。この時に伐採したヒツバタゴからは直径25cm×120cmほどの幹が数本と多数の枝が得られました。生木特有のゆがみや割れが生じるため、幹は板に製材してから約9ヶ月間乾燥させ、2台分のベンチの材料にしました。座面も脚もヒツバタゴの材を使い、防腐剤を使用せずに天然素材の塗料で仕上げた特別なベンチです。今春から展示館 中庭周辺のウッドデッキに設置しています。これまで50年にわたり、私たちを見守り、楽しませてくれたヒツバタゴ。これからは新たな憩いと安らぎを与えてくれることでしょう。

また、ベンチには利用できなかった枝は子供たちの森林環境学習を支援する「山の学習支援事業(山の一日先生を派遣する事業)」の教材として(公財)高知県森と緑の会に寄贈しました。これからの高知の未来を担う子供たちに植物に興味を持って接してもらえれば幸いです。

(中野善廣)

身近な植物を
知る

Vol.43
Plants close to us

フジ

[マメ科]

Wisteria floribunda (Willd.) DC.

今話題の植物といえば漫画「鬼滅の刃」で描かれたフジがあげられると思います。藤色とよばれる薄紫色の花が甘い香りを漂わせながら咲くさまは古くより人々を魅了してきました。日本の固有種であるフジは本州や四国、九州に多く自生する植物ですが、観賞用としての栽培の歴史も長く、公園や神社などの藤棚ではさまざまな栽培品種の花を楽しむことができます。

また、フジの蔓は身近な素材として多くの日用品づくりに使われてきました。特に、蔓の繊維で織る藤布は古代から明治時代ごろまで衣服や敷布、袋、畳の縁、漁網などに幅広く利用されていたようです。さらに、樹皮にできるごぶは健胃や制癌を期待した民間薬として用いられ、近年ではフジから抽出された物質が肝臓の病気の進行を知るためのマーカーとして使われています。フジはまさに日本人の生活を支え文化を育ててきた植物といえるでしょう。(白河潤一)



藤棚に咲くフジ(鹿児島県にて撮影)

Staff's recommendation

スタッフに聞く!
植物園の見どころ Vol.43

総務課
楠瀬佐波のおすすめ

ふとした瞬間に 出会う光景

植物園で日々働いていると、思いがけず心に響く光景に出会うことがあります。

初夏の日差しの中、ふと遠くへ目をやると、新緑の山々の上を雲の影がすべるように動いていました。目の覚めるような眺望に、どこか体の知らないところに新鮮な空気が流れ込んだような、不思議と清々しい気持ちになりました。

台風一過の秋晴れの日、日がな一日皆で汗をかき、園の清掃作業を終えて連絡道から空を見ると、山の端に小さくのぞく太平洋に夕日が沈むところでした。その夕日は、台風の雨にざぶざぶと洗われて、生まれ変わったような新しさで疲れた体を照らしてくれました。

澄んだ冬の夜、仕事を終えて家路につくとき、東の谷から昇る大きな満月が目にはいりました。その荘厳さに、千年もの昔、中国の聖地・五台山に似た霊山としてこの地を選んだ行基上人の想いに触れたような気がしました。

どの光景も、植物園で過ごす中で、ふとした瞬間に出会えた美しい光景です。皆さんも、植物園で心に残る光景をたくさん見つけてみませんか。



大粒の雨に洗われた新緑の南園